

## 【仮訳】

### モザンビーク共和国 農業食糧安全保障省 プロサバンナ マスタープラン・ドラフトゼロ公聴会 結果報告

#### 1. 経過報告

プロサバンナマスタープランの2013年のコンセプトノートは、プログラムの対象地域であるナンブラ州、ニアッサ州、ザンベジア州の19郡（ナカラ回廊）及びマプト市で協議された（※注）。これらの協議は、農民、コミュニティー、開発パートナー、市民社会団体の参加の下で行われた。

このステップを経て、マスタープランのドラフトゼロが作成され、2015年3月31日にプロサバンナの公式ホームページを通じて公開されると共に、郡経済活動事務所及び3州の農業食糧安全保障局で閲覧可能となった。その後、ドラフトゼロに関する公聴会が、2015年4月20日から29日にかけて19郡において開催され、またザンベジア州、ニアッサ州、ナンブラ州の州都で、それぞれ4月30日、5月8日、5月13日に行われた。マプト市での公聴会は、6月12日に実施された。

公聴会の目的は、ステークホルダーやモザンビーク社会からの意見・提言の収集のために、マスタープランのドラフトゼロの提案を発表し、協議することである。このプロセスにおいて、公聴会は41回開催され、参加者人数は3000人以上に上った。

公聴プロセスは、以下のとおり準備された：

- 1) コミュニティーラジオ、全国・地方ラジオ放送（RM）、テレビ（TVM、STV）などの国内マスメディアを通じた、少なくとも開催15日前の郡・州協議に関する日時と場所の公開と告知。なお、コミュニティーとの情報共有に、現地語で流れるコミュニティーラジオが広く用いられているということに十分な注意が払われた。
- 2) マスタープラン・ドラフトゼロの要約版、完全版の印刷物の配布。これらは、市民社会団体や開発パートナーにも共有された。
- 3) （必要な箇所においては）現地語を含む、マスタープラン・ドラフトゼロの内容説明。

プロサバナマスタープランのドラフトゼロは、プロサバナプログラムを構成する3コンポーネントの1つであるプロサバナマスタープランの最終化のための対話プロセスを導く基礎となるものである。マスタープランは、モザンビーク全土で農業開発戦略を実施するにあたって、指針となる農業セクター開発戦略計画（PEDSA）を基に作成されたものであり、生産性の向上と生産量の増加を目標に、小農支援に重点を置いているものである。

公聴会には、農民や農民組織、地方・州・中央レベルの市民社会団体の代表、官民両セクター、有識者、宗教団体からの自発的な参加があった。また、郡レベル、州レベルの公聴会には日本やブラジルの市民社会団体の代表も参加した。

公聴会の協議で出された多くのコメントのうち、特筆すべき事項は次の通り：

- 現地農民による土地へのアクセスを保障する手段、プログラムを実施するための財政メカニズム
- 市場アクセス
- 農業開発 vs. 環境保全
- 自然資源管理
- （サービス、投入）農民を支援するメカニズム
- 推進されるべき作物
- 人材の強化及び育成
- 技術移転
- ジェンダー、気候変動、保健、教育、インフラ整備等の横断的な問題

公聴会では、参加者から建設的なコメントがなされ、農業セクターにおける主要な懸念事項に対応するためにプログラムを改善する必要性が指摘された。ナンブラにおいては、プロサバナにおけるプロセスへの民間セクターの参加、特に土地の権利、土地の利用についていくつかの懸念が示された。また、近い将来プロサバナプログラムが実施されることを望む声も挙がっていた。

公聴を通じて得られたコメントについては、技術チームによって整理され、更なるコメントを取り付けるために、関心を持つ全ての機関に公開される。追加コメントが揃うまでの間、技術チームは、これまで得られたコメントをマスタープラン案に取り込む作業を始めている。しかしながら、マスタープランの最終版が確定するまでの間、対話のプロセスは続くことに留意しておくことが重要である。

## 2. 公聴プロセスの評価

プロサバンナの構想の初期段階から、農業食糧安全保障省（MASA）とそのパートナーは、MASA、開発パートナーや他のステークホルダーの様々な形でのフォーラムにおける関与を通じ、モザンビークの農業セクター開発に関心を有しているステークホルダーとの定期的な対話を特に重視してきた。

2015年に実施された公聴会については、プロセスを改善するためにいくつかの手続きをレビューする必要があるとの結論に至った。例えば、対象グループとの対話のための現地語の使用は、ポジティブな成果をもたらしたことが確認されており、今後も実行されるべきである。一方で、市民社会団体とのコミュニケーションは強化する必要があり、恒常的な対話体制を構築する必要があることが確認された。

実際、マスタープラン案は、マスタープランのモニタリング・評価やコミュニティとの対話プロセスにおける支援において、市民社会の参加を確保するメカニズムを見据えている。また、土地使用权（DUAT）の取得・検査や、潜在的争議の解決における支援に関しても市民社会の参加は歓迎されている。最後に、市民社会は、マスタープランの実施強化のために行われる追加的な調査への貢献も期待されている。

結論として、マスタープラン案をより充実した内容とするべく、モザンビーク政府が、ナカラ回廊のコミュニティ、ステークホルダー、市民社会との対話の継続にコミットしていくことを改めて明確にしたい。

プロサバンナを成功させるための皆様の支援を期待する。

2015年8月28日、マプト

※訳者注：コンセプトノートに関する協議については、対象3州（州レベル）、およびマプト（中央レベル）で実施されたが、原文のままとした。